



6月12日は「児童労働反対世界デー」

鉱山・石切り場で働かされる子どもたち

— 生きるために背負う重荷 —

6月12日の「児童労働反対世界デー」に、国際労働機関（ILO）と児童労働の分野で活動する NGO（ACE、ECPAT/ストップ子ども買春の会、国際子ども権利センター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン）、国際労働財団（JILAF）、NTT 労働組合が協力して、ユースからシニアまで広く一般の方々を対象とする児童労働についてのワークショップを下記のように開催します。また、世界の国々で働く子どもたちの現状を伝える写真パネル展「児童労働にレッド・カード」を開催中（6月15日まで）です。

世界では2億4600万人（ILO推計）もの子どもたちが十分な教育を受けられず、健康を損ない、基本的な自由を奪われて働いています。今年の児童労働反対世界デーのグローバル・テーマは「**鉱山や石切り場で働かされる子どもたち**」。ILOの推計では、100万人の子どもたちが、今も世界中の鉱山や石切り場で働かされています。子どもたちは、長時間、重荷を背負ったり、爆発物をしかけたり、砂や泥をふるいにかけて、狭い坑道の中を腹ばいになって働いています。そして、有害な粉塵を吸い込み、また、鉛や水銀などの危険な有害物質を含む川の水にさらされています。人権を無視され、生命の危険に脅かされながら働いているこのような子どもたちのことを、日本の私たちはどれだけ知っているのでしょうか？世界の子どもたちが直面している児童労働の問題を、皆さんも是非一緒に考えてみませんか。

●ワークショップ●

日時： 6月12日（日）午後1時～4時

場所： UNハウス2F レセプションホール

（東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学本部ビル）

対象： 一般（小学校高学年以上～）先着100名まで

参加費：無料

内容： ILO、NGO および労働組合、等による児童労働の現状と取り組みに関する発表、Q&A、参加者同士の意見交換

申込み：国際労働機関（ILO）駐日事務所にファックスかメールで

FAX：03-5467-2700 E-mail：wdcl@ilotokyo.jp

氏名、年齢、連絡先（住所、電話番号、E-mail）を明記の上、お申込み下さい。



©ILO

主催： 国際労働機関（ILO）駐日事務所

共同企画運営団体： ACE、ECPAT/ストップ子ども買春の会、国際子ども権利センター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、国際労働財団（JILAF）、NTT 労働組合

特別協力： 児童労働ネットワーク

協賛（申請中）：厚生労働省、日本労働組合総連合会（連合）、日本経済団体連合会（経団連）、（財）日本ILO協会

●写真展●

日時：5月9日（月）～6月15日（水）午前10時～午後5時半（月～金曜開館）

*6月12日（日）ワークショップ開催中は開館

場所：UNハウス1・2F UNギャラリー

入場：無料

内容：世界各国のさまざまな産業で働く子どもたちの現状

2005年6月12日「児童労働反対世界デー」ワークショップ

プログラム

- 13:00-13:15 開会の辞+鉱山労働における児童労働の歴史的背景
ILO 駐日代表 堀内 光子
- 13:15-13:30 ビデオ上映
「ILO 鉱山児童労働ビデオ」
- 13:30-13:45 日本の鉱山労働:「石見銀山から今日まで」
日本労働組合総連合会（連合）国際局長 熊谷 謙一
- 13:45-14:00 NTT 労働組合児童労働撲滅キャンペーンスタディツアー参加者報告
インドで見た石切り場の児童労働
NTT労働組合 藤原 巖夫 & 佛石 文子
- 14:00-14:15 石切り場の児童労働現場での学校づくり支援
（財）国際労働財団 現地支援事業部グループリーダー
元林 稔博
- 14:15-14:30 児童労働クイズ
ACE代表 岩附 由香
- 14:30-15:00 ペルーにおける取り組み（逐次通訳） - 予定
- 15:00-15:15 戦争・ケータイ・ダイヤモンドと児童労働：アフリカ諸国の紛争事情
アムネスティ・インターナショナル日本事務局長 寺中 誠
- 15:15-15:30 質問タイム
- 15:30-15:55 グループ・ディスカッション
- 15:55-16:00 アンケート記入（①感想 ②私たちにできることは何か、等）